

販売電力量の概要

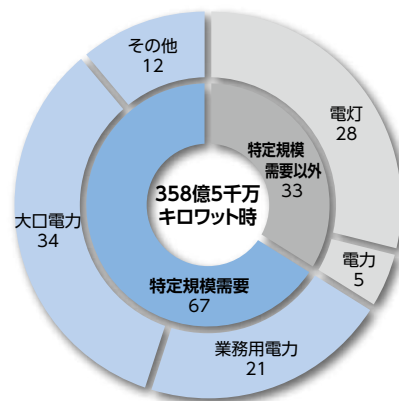
“冷暖房需要の減少などから前年同期比1.2%減”

平成27年度上半期の販売電力量は、東日本大震災からの復興の動きなどが続いているものの、前年に比べ春先の気温が高く、夏場後半の気温が低めに推移したことによる冷暖房需要の減少や節電への取り組みなどから、前年同期に比べ1.2%減の358億5千万キロワット時となりました。

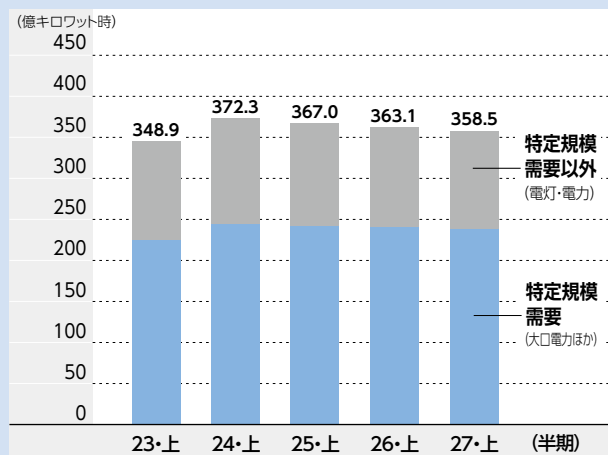
このうち特定規模需要(※)を除いた電灯および電力の需要は、前年同期に比べ1.7%減の119億6千万キロワット時、また、自由化の対象である特定規模需要は、前年同期に比べ1.0%減の238億9千万キロワット時となりました。

(※) 特定規模需要とは、特別高圧または高圧で受電する原則として契約電力50キロワット以上の自由化対象のお客さまです。

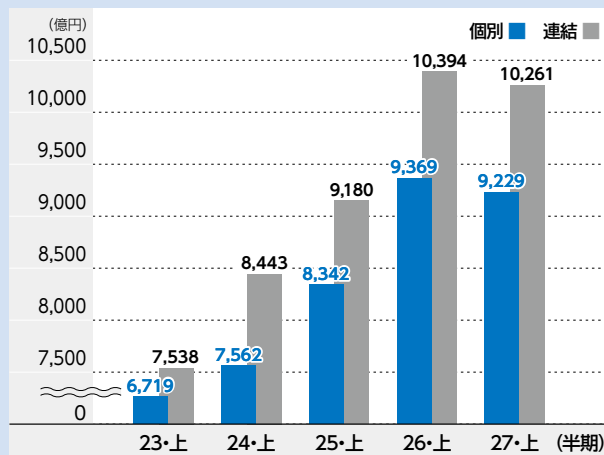
■平成27年度上半期販売電力量の構成(%)



■販売電力量の推移



■売上高の推移



収支の概要

“燃料費減、効率化継続等により経常利益増加”

平成27年度上半期の連結収支は、収益面では、当社において、販売電力量の減少や燃料費調整額の影響などにより電灯・電力料が減少したことなどから、売上高（営業収益）は前年同期に比べ133億円（1.3%）減の1兆261億円、四半期経常収益は前年同期に比べ110億円（1.1%）減の1兆319億円となりました。

一方、費用面では、安定供給維持のための修繕費が増加したものの、燃料価格の低下などに伴い燃料費が大幅に減少したほか、経費全般にわたり効率化の実施に努めたことなどから、四半期経常費用は前年同期に比べ162億円（1.7%）減の9,391億円となりました。

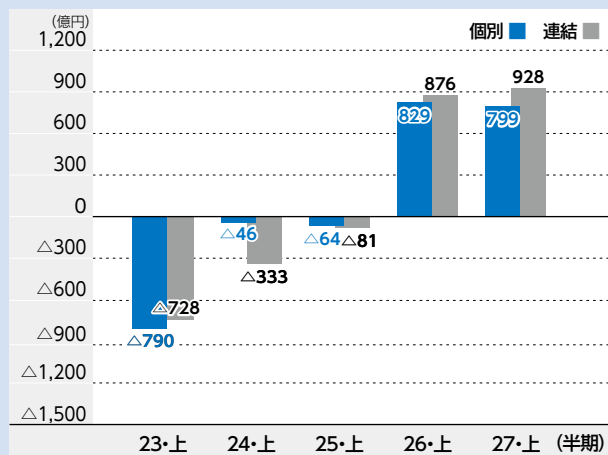
以上の結果、経常利益は前年同期に比べ51億円（5.9%）増の928億円となりました。

また、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期に比べ44億円（6.6%）減の629億円となりました。

なお、個別（当社単独）の経常利益は799億円、四半期純利益は559億円となりました。

中間配当は、上記の決算の状況や今後の収支見通し、財務体質の回復の状況などを総合的に勘案し、平成26年度期末と同じく1株当たり10円とさせていただきます。なお、期末配当予想については、引き続き未定としております。

■経常損益の推移



■四半期純損益または親会社株主に帰属する四半期純損益の推移

